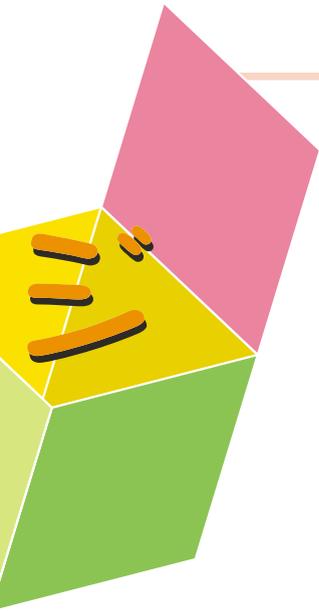


# GALLERY ギャラリー



「春景」写真  
野口繁男さん(津川町合津)



「五月晴れよるこもび空にまい溢れ」水墨南画  
堀 幸子さん(玉川町玉)



「椿」切り絵  
島田一美さん(有漢町上有漢)



「ふきのとう」絵手紙  
西林和子さん(成羽町成羽)



「八ヶ岳」日本画  
江草正光さん(備中町平川)



「霧海」写真 霧の海展望の丘(松原町)より撮影  
進 正和さん(倉敷市笹沖・市内勤務)

## 作品の募集について

自作の川柳、短歌、絵手紙、町の風景写真、絵画など

- 未発表の作品に限ります。
- 一人一品とします。
- 絵画は、その写真をお送りください。
- 住所・氏名・電話番号・年齢を明記のうえ、お送りください。

※締め切り 掲載号の前月の末日(必着)

【送り先】〒716-8501 (住所不要)  
高梁市役所企画課公聴広報係

※応募多数の場合は、紙面に掲載できない場合もありますので、あらかじめご了承ください。  
※提供いただいた写真等は返却できません。

■問い合わせ 企画課公聴広報係 ☎0210  
Eメール: kikaku@city.takahashi.okayama.jp

# 市民のページ

## 文芸たかはし

(敬称略)

### 短歌

華ぎてピンクの衣まといつつ八重の桜は俯きて咲く

亀石恵美子(川上町仁賀)

松山藩財政なをす方谷の進めし葉たばこ今作る人なし

坂田 昭夫(松原町大津寄)

春浅く花の蕾の動き見ゆ老いし心も少し弾みぬ

田中 弘子(川上町領家)

春の朝菜園畠を一めぐり片隅にタンポポの花凜と咲き

戸田奈美子(川上町地頭)

ほととぎす過疎とも知らず新緑のうぐいすの葉に卵産み去る

原田 由き(高倉町飯部)

またおいで見上げる孫はまた来るよにっこり笑って川面にかすむ

三村 妙子(川面町)

弥高山撫で吹く風のなまぬるく君は知らずや満開の花

宮本 宮吉(川上町七地)

### 俳句

廢屋の狭庭彩りやぶ椿

長原 茂子(備中町西油野)

廢屋も過疎の一景桜花舞ふ

平 初音(高倉町田井)

ふきのとう午後もつめたき風つる

平松 幾代(長寿園内)

春雨や静かにゆるる桜かな

結城 成子(宇治町宇治)

### 川柳

ブレーキが効かぬ性格増えてきた

長谷川祐子(成羽町下原)

母の日はみやげ無しとの空電話

藤井タツ子(備中町西山)

## 地名をあるく

### 七、多和山峠

有漢町の西の端、北房町(現・真庭市)との境に「多和山峠」があります。

東の陣が畝山(海拔四八三m)と西の多和山(四四五m)に挟まれた「迫」に当る海拔約三五〇mの位置にあります。峠への登り口には大谷の集落が点在し、南西に向かつて大谷川が流れていて、巨瀬町で有漢川に合流しています。この地は高梁川と旭川の分水嶺の一つになっています。

峠のふもとにある大谷地区は、江戸初期には下有漢村の枝村としての大谷村でした。後には下有漢中村の枝村として記録されています。

元和三年(一六一七)から松山藩領として、池田氏や水谷氏の支配を受け、後の延享元年(一七四四)から石川氏の支配となり、石川氏が伊勢亀山へ転封されると、中津井陣屋の支配を受けて幕末を迎えています。

「多和山峠」は古くから落合往来の交通の難所、「多和山越え」として知られ、多くの人々が往来し、物資の輸送も活発に行われました。尾根越えの道を登り切ると向こうの世界が広がる「ほっと一休み」する場所として、こちらとあちらを分ける境目として、また、文化を結びつける場所として昔から多くの人々が「多和山峠」を大切にしてきました。峠付近には集落もでき「長い軒の宿屋があつてばくろうなどが泊まっていた」「有漢町史」とか、「今、うちの家があるところに茶店もあつた」「藤森勝年さん」有漢町有漢・六九歳・の話)のです。

「多和山峠」には信仰も生まれ、交通安全、牛馬の安全を祈願した「馬頭観音・伯樂天王(馬をつかさどる星・大日如来・明治四〇年)銘の碑が立っていたり、峠に登ると「寛政二戌年(一七九〇)」と書かれた地藏石仏(昔とは位置が移動している)が祭られていて境目信仰(峠信仰)の面影が残っているのです。

「多和山峠」という地名は「峠山峠」とも書かれ「タワ」と「トウゲ」を二重に表記した珍しい自然地名なのです。「タワ」(タオ)は峠の古称なのですが、国字といわれ漢字ではありません。山の鞍部、即ち「たわんだところ」という意味から「タワ」(タオ)という地名ができたのは、平安時代以降といわれ古くから「タワ越え」などと使われていました。中国地方には特に「タワ」(タオ)の地名が多く、見たこともないような特有の字が使われている(峠・峠・峠・峠・峠・峠・峠・峠など)いづれも「とうげ」の概念はなんとなく現されていて、「方言文字」または「地方字」という面白いです。また、峠には「柴折り神」という柴を折って手向ける信仰があつて、その「タムケ」という言葉から音便となつて「トウゲ」という地名ができたともいわれているのです。

今では自動車の利用が一般化し、新しく多和山トンネルができて「多和山」の峠道は、往時の面影が薄れて急速に衰え、人々に忘れられようとしているのです。

(文・松前俊洋さん)



昔の面影を残す多和山峠(有漢側より)